

1. 平成29年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△43.8ポイントで、前期1～3月期の△47.0ポイントから3.2ポイントプラスとなった。建設業のDI値が前期に比べ22ポイントと大幅に改善したが、製造業がマイナスとなっている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 50 (△ 54) 	△ 34 (△ 54) 	△ 22 (△ 20) 	△ 12 (△ 11) 	△ 56 (△ 63) 	△ 25 (△ 13) 	△ 68 (△ 50) 	△ 59 (△ 50) 	△ 39 (△ 43) 	△ 35 (△ 29)
採算		△ 50 (△ 54) 	△ 25 (△ 54) 	△ 21 (△ 20) 	△ 13 (△ 18) 	△ 67 (△ 63) 	△ 50 (△ 12) 	△ 48 (△ 55) 	△ 52 (△ 60) 	△ 50 (△ 29) 	△ 56 (△ 36)
資金繰り		△ 25 (△ 46) 	△ 44 (△ 38) 	△ 19 (△ 20) 	△ 3 (△ 20) 	△ 11 (△ 13) 	△ 13 (14) 	△ 44 (△ 30) 	△ 46 (△ 30) 	△ 25 (△ 43) 	△ 27 (△ 36)
業況		△ 32 (△ 54) 	△ 31 (△ 42) 	△ 31 (△ 17) 	△ 11 (△ 6) 	△ 67 (△ 63) 	△ 33 (△ 15) 	△ 54 (△ 58) 	△ 50 (△ 63) 	△ 35 (△ 43) 	△ 44 (△ 36)
経営上の 当面する 問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
	2位	官公需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		販売単価の低下		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	3位	新規参入業者の増加		製品(加工)単価の低下		店舗・倉庫の狭隘・老朽化		需要の停滞		大企業の進出による競争の激化	
業種別 コメント		<p>冬季需要の停滞期を越え、今期は前項目ともプラスに転じている。全体的に現場は動いているが、民間、官公工事ともに工事価格の減少と材料仕入値の上昇により利益確保が難しい状況が続いている。</p> <p>来期見通しについてもプラスとなる見込みではあるが、引き合いの停滞から売上見込が立たず、併せて事業資金の借入難が経営上の課題として増えてきており、資金繰りの厳しさが現れている。</p>		<p>材料仕入単価上昇が懸念されるものの、受注も増加してきていることから業況以外の項目では来期見通しとも回復傾向にある。</p> <p>工場建物、生産設備等の設備投資を実施または実施予定の事業所が増えており、受注は順調に伸びてきている。今後は、安定受注のため従業員の確保が課題である。</p>		<p>前年同期に比べ、各項目ともほぼ横ばいとなったが、来期の見通しは厳しい状況となっている。</p> <p>仕入単価は落ち着きを見せているが、売上全体が伸び悩んでいることから景気感は依然薄く、引き合い増加から受注につなげるための営業がより一層必要とされる。</p>		<p>業況については、今期、来期の見通しともプラスとなったが、買い物客の市外流出(三条・燕)が増加傾向にある。</p> <p>また、通販、インターネットでの買物の増加を問題視している事業所も多い。</p> <p>消費者の流出に歯止めをかけるため、変化する消費者ニーズに敏感に対応するとともに店舗購入の利点を十分にPRすることが必要である。</p>		<p>今期は歓迎会シーズンのため、前期に比べ業況、売上を含め全体的に回復したが、需要の停滞を感じている事業所も多い。採算については材料等仕入単価上昇により大幅なマイナスとなっており、依然厳しい状況が続いている。</p> <p>店舗の狭隘・老朽化を問題点に挙げる事業所が増加しているが、資金面の問題から、直ちに直せないのが現状である。</p>	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値